# 令和６年度第１回川崎市産業振興協議会・中小企業活性化専門部会
# 会　　議　　録

１　開催日時

令和６年５月３０日（木）１４時３０分～１５時３５分

２　開催場所

ＰｉＯ　ＰＡＲＫ　特別会議スペース（東京都大田区羽田空港１丁目１番４号）

３　出席者

（１）　委員（４名）

遠山部会長（専修大学経済学部教授）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会・常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会・青年部相談役）、大原委員（川崎市食品衛生協会・副会長）

（２）朝比奈経済活性アドバイザー

（３）事務局

経済労働局産業政策部長、企画課長、企画課職員

４　議題（公開）

（１）川崎市中小企業活性化条例に基づく令和５年度の施策検証について

（２）かわさき産業振興プランについて

（３）令和６年度施策の検証の進め方について

５　傍聴者

無し

６　会議の内容

産業政策部長
（令和６年度第１回川崎市産業振興協議会・中小企業活性化専門部会開会を宣言）
（会議公開や傍聴人の有無、会議成立を確認）
（議事進行を遠山部会長に依頼）

遠山部会長
それでは、議題１の川崎市中小企業活性化条例に基づく令和５年度の施策検証について、事務局から説明をお願いしたい。

企画課長
（資料１「令和５年度施策検証シート」に基づき、令和５年度中小企業活性化施策の実施状況に対する主な検証意見及び令和６年度以降の対応、令和６年度の実施計画について説明）

遠山部会長
ただいまの事務局の説明を受けて、御質問や御意見があれば御発言いただきたい。

大西委員
越境ＥＣの活用について、具体的にどのようなことを計画しているのか。

企画課長
令和４年度・令和５年度の２年間は、食料品など「モノ」を中心に取り扱ってきたが、今年度からは川崎で体験できるようなコンテンツも取扱商品として提供していく予定。また、これまではＢｔｏＣが中心であったが、今後はＢｔｏＢの販路開拓にも繋げていきたいと考えている。

遠山部会長
越境ＥＣについて、「今後はインバウンド向けの市内における体験型サービスを取り扱い、川崎の魅力を発信していきます。」と記載されているが、川崎の魅力というとやはりロボットなどになるのか。

企画課長
どのようなコンテンツが海外の方にとって魅力的であるかについては、はかりかねるところがあるが、ロボット技術を生かしたサービスや食品サンプルのキーホルダーなどを試験的に提供している。

遠山部会長
そのようなものの販売を試験的に市役所が行っているということか。

企画課長
民間事業者と連携して市が越境ＥＣのポータルサイトを作成し、そこに出品していただくという形で市内企業を支援している。

遠山部会長

事業者もリスクを取って取り組んでいるということか。

企画課長

ご認識のとおり。令和４年度・令和５年度はトライアル事業であったため無料で出品していただいたが、今年度は一部費用を負担して出品していただいている。

大原委員

今年、「かわさき名産品 2024-2026」が認定されたが、この事業自体長年続いているものの、なかなか販売に結び付いていない。各個店が努力するということは前提ではあるが、なかなか販売の受け皿が見つからないというのが実情。これまで 20 年間続いた「Ｂｕｙかわさきフェスティバル」が令和５年度で打ち切りとなり、市制 100 周年に絡めた販売イベント等も特に開催されない中で、新しい名産品をどこでＰＲすれば良いのか。今後の商業の活性化を議論する中で、具体的な案を出していただけるとありがたい。

企画課長

市役所内部の組織改正により、一昨年から商業部門と観光部門が一体化され、それぞれの支援ツールを組み合わせてＰＲに取り組んでいる。市民祭りや花火大会など、コロナ禍が収束して各種集客イベントも復活してきているので、そのような場を活用して情報発信していきたいと考えている。

また、民間事業者が有志を募り、アトレ川崎などで川崎産食品等の販売イベントを実施していたりするので、そのような事業者とも連携しながら、名産品のＰＲに引き続き取り組んでいく。

大原委員

商業は大きく飲食と物販に分かれる。名産品は物販にあたると思うが、様々なイベントを開催していただく中で、売れるものは物販ではなく飲食である。物販のものを持っていっても売れないため、その時だけ飲食を手掛けてみようかという流れにもなってきてしまっている。自分たちが持っている良い技術を物販で発揮して伝えたいという思いはあるが、イベントでは売れにくいというジレンマがある。先日、市役所本庁舎の１階に入っているファミリーマートから商品取り扱いのお話をいただいたが、このようなしっかりした場所で、かつ長いスパンで販売できるような場所を作っていただけるとありがたい。

出口委員

商店街の活性化についてだが、これまで実施してきたイベントが実施できなくなっているという状況がある。例えば、端午の節句の時に鯉のぼりをあげているところが少なくなっていたりと、季節行事に絡めて何かをやろうとするとなかなか大変で難しい。自社の地域でいうと夢見ヶ崎動物公園があり、そこでは大きな鯉のぼりがあげられていて、人が集まり、子ども達がたくさん遊んでいる。同じようなことを商店街でやろうとすると、マンパワーが不足しており、なかなか難しい。小回りの利く催事系の支援があるとありがたい。今は福引きや年末の大売出しなども実施しない商店街が増えている。今まで当たり前にやってきたことが出来なくなってきているので、何か賑わい創出につながるサポートがあると良い。

また、市政だよりを見てイベントに来たという方も多く、集客度合いに差が出るので、ＳＮ

Ｓだけでなく、紙媒体による広報面での支援も実施していただけるとありがたい。

企画課長

商店街に対する支援としては、商店街課題対応事業補助金を用意しており、こちらは比較的小回りが利くものになっている。こういった事業をご活用いただき、チラシ等を作成して広報していただくことも可能。

また、こちらに情報提供いただければ、経済労働局のＸ等で広報することも可能。区役所でもチラシを配架することは可能ではないかと思うので、都度ご相談いただきたい。

遠山部会長

専修大学の出身者が渋谷区長を務めており、話を聞く機会がよくあるのだが、紙媒体をうまく使うことが重要であると言っていた。渋谷区では、ＬＩＮＥを活用した住民サービスに力を入れているが、より多くの住民に知ってもらうためには紙媒体もうまく組み合わせて使うことが重要とよく言っている。そのあたりを川崎としても工夫していくと良いのではないか。

朝比奈経済活性アドバイザー

総論的には、川崎は地理的にも恵まれていて、非常にうまくいっているので、次は世界に冠たるジャンプを目指すというくらい野心的であっても良いと思う。あまり意味がなくなった施策は大胆にスクラップしつつ、世界へのジャンプ戦略を考えると良いのでは。

各論としては、集積しているベンチャー企業をどのようにして大きくしていくかということが重要。これについて、具体的な取組を２つ紹介させていただく。１つは、昨日発足した「メガベンチャー勉強会」。あずさ監査法人の山田理事長と経済産業省の資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長が共同座長を務め、私が副座長を務めている。また、大学や大企業とも様々連携する必要があることから、慶應大学から芦澤准教授、東北大学から中川副理事、東京大学から松尾教授とエッジキャピタルパートナーズの郷治社長にご参加いただいている。産学連携といっても、実際に大学のシーズを使って世界で活躍するベンチャーを作り出したという事例は少ない。ここではその手法を議論しており、川崎もモデルになり得ると考えている。具体的には、大学の様々なシーズを綿密に洗い出し、それを市内の中小企業やベンチャー企業、大企業にどのように繋げていくかという問いにチャレンジしていくのも良いのではないか。

２つ目は福井県の取組。福井県では県庁主催で県立大学、福井大学、商工会議所等が集まり、世界に飛躍する企業をどのように作っていくかということを議論している。キーワードは「寄り添い力」。例えば、渋谷区ではベンチャー企業に寄り添った支援をするためにエッグフォワードという企業と連携している。お題目として寄り添うということは誰でもできるが、実際に採用・財務・知財など様々なことに対応してくれるドリームチームがいて、初めから世界を目指し、人材の育成等も含めて伴走支援していくことが重要。

次に、先ほどイベントの話があったが、コロナも収束したので羽田の有効活用を考えると良いのではないか。羽田でイベントを実施すると、日本に関心のある外国人が集まってくる。また、海外に向かう日本人も集まっており、羽田でイベントを実施することは非常に集客効果がある。

また、農業については、できるだけ規模を大きくして、どこに輸出させるかというところがポイントになる。日本の農業は世界からの関心が高く、川崎は羽田から近いという地理的優位性もある。これを活かした輸出にも期待して良いのではないか。今は農業の６次産業化と言われているが、重要なのは３×２×１、つまり３次から始まって２次、１次という順であること。

出口を見据えて生産するということが重要であるが、一般的に農業者はそこが弱い。この点も、先ほど申し上げたジャンプ戦略を考える上で鍵になってくるのではないかと思う。

また、羽田から近いということは優秀な外国人を捕まえるチャンスがあるということ。優秀層の人材は日本の食への関心も高いので、どのように確保するかという戦略を考え、万博を活用するなど、時宜を得た取組も検討していくと良いのではないか。

最後に、日本では今アドベンチャーツーリズムが流行っている。これは徹底的に地域を知るツーリズムで、羽田から少し立ち寄ってもらうというのではなく、川崎中を案内して１日あたり何十万というお金を落としてもらうというもの。クルーズ船で 96 人の人に来訪してもらった場合の経済効果と、アドベンチャーツーリズムで４人の人に来訪してもらった場合の経済効果は同じという研究もある。今はオーバーツーリズムの問題からアドベンチャーツーリズムにシフトする流れがあるので、川崎もそういう方向でジャンプ戦略を検討すると良いのではないか。

遠山部会長

羽田で川崎のものづくりをＰＲすることについて、大田区との関係で支障はあるだろうか。

企画課長

日ごろから連携しているので、その点は問題ないと考えている。

朝比奈経済活性アドバイザー

新産業を誘致するという観点では、素材やものづくり産業は注目すべきと考えている。日本企業による新エネルギーのための製造拠点を誘致する価値はあると思う。

遠山部会長

それでは、続いて議題２・議題３について、まずは事務局から説明をお願いしたい。

企画課長

（資料２「かわさき産業振興プランについて」、資料３「令和６年度施策の検証の進め方について」に基づき説明）

遠山部会長

議題２について、まずは事務局で案を作るという理解でよいか。

企画課長

ご認識のとおり。

遠山部会長

事務局が案を作成する前に伝えておきたい御意見等があれば御発言いただきたい。

朝比奈経済活性アドバイザー

先ほど申し上げた「ジャンプ」に関わる施策を入れていただけたらありがたい。

企画課長

川崎の一押しは量子分野。これについてはソフト・ハード両面で整備していくという目標があるので、その辺りは強く打ち出せるかと考えている。

遠山部会長

それでは本日の議事は以上とする。

産業政策部長

本日の会議は以上。長時間の御審議に感謝申し上げる。

以上